学校番号	122

平成31年度　　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	2	年次	２年次
使用教科書	「精選古典B　新版」（東京書籍）						
副教材等	①「改訂版　完成古文単語」（尚文出版）②「要点プラス　体系古典文法」（数研出版）③「新訂国語図説（四訂版）」（京都書房）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では、古文の物語や随筆、和歌、さらに漢文・漢詩といった様々な種類の文章や韻文が登場します。それらを、１年次の「古典（国語総合）」で身につけた知識や語彙力を活かして、より深く読み込み、味わうことで自分自身の感性をさらに豊かなものにしましょう。古典とはいえ、全く知らない言葉ばかりではなく、１年次に身につけた古文単語や古典文法、また書き下す力を駆使して、自分の力で作品を読み込むことが必要です。自分自身で読解し作品の深みを味わうことができたときには、まるで時を超えて古の人が語りかけてくれているような、何ににも代えがたい感動があります。また、そのように作品を通して感じ取ったり学び取ったことを他者と話し合って、改めて共感したり考えたりすることで、深みのある伝統文化の愉しさに触れることができることでしょう。

2　学習の到達目標

・文学作品を深く味わうことのできる基礎としての読解力や語彙力（古文単語や古典文法の知識など）を身につける。
・近世までの文学史を概観することを通して古典文学の魅力や特徴を知り、日本の文化的涵養を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（授業や課題への取り組み） ・記述の点検（ノート、ワークシート等）			・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学 期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	e	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	説話1	『唐物語』	○			◎	○	a:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけようとしている。 d:文章に描かれた人物、情景、心情等を表現に即して読み味わっている。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
	物語1	『伊勢物語』 「初冠」 「すける物思ひ」 「つひにゆく道」	○			◎	○	a:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけようとしている。 d:文章に描かれた人物、情景、心情等を表現に即して読み味わっている。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
	随筆1	『枕草子』 「すさまじきもの」 「雪のいと高う降りたるを」	○			◎	○	a:文章を読み深めるために正確に音読しようとしたり、聞き取ろうとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
	軍記物語	『平家物語』 「忠度の都落ち」	○			◎	○	a:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけようとしている。 d:文章に描かれた人物、情景、心情等を表現に即して読み味わっている。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 d:記述の点検 定期考査 e:定期考査

2	随筆2	『方丈記』 「安元の大火」	○			○	◎	a:文章を読み深めるために正確に音読しようとしたり、聞き取ろうとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
		『徒然草』 「悲田院の尭蓮壮人は」 「花は盛りに」	○			◎	○	a:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:文章を理解するのに必要な古文単語や古典文法を知識として身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
	日記1	『更級日記』 「門出」	○			◎	○	a:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:文章を理解するのに必要な古文単語や古典文法を知識として身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
		『蜻蛉日記』 「あまぐもにそる鷹」	○			◎	○	a:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけようとしている。 d:文章に描かれた人物、情景、心情等を表現に即して読み味わっている。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
	小話	『不死之薬』	○			◎	○	a:文章を理解するのに必要な訓読のルールを知識として身につけようとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:文章を理解するのに必要な語句や訓読のルールを知識として身につけている。	a：行動の観察 記述の点検 d：定期考査 e：定期考査
3	物語2	『大鏡』 「道真の左遷」	○			◎	○	a:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:文章を理解するのに必要な古文単語や古典文法を知識として身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
		『源氏物語』 「光源氏の誕生」	○			◎	○	a:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけようとしている。 d:文章に描かれた人物、情景、心情等を表現に即して読み味わっている。 e:作品理解に役立てる為の古文単語や古典文法、文学史の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査
	史記1	『項羽』 「鴻門の会」	○			◎	○	a:文章を理解するのに必要な訓読のルールを知識として身につけようとしている。 d:文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 e:文章を理解するのに必要な語句や訓読のルールを知識として身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:定期考査 e:定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力　d:読む能力 e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。

学校番号	122

平成31年度　　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「精選　古典Ｂ」改訂版　（大修館書店）						
副教材等	「大学入試国語頻出問題1200」（いいずな書店）・「Look@古文単語337」（京都書房）・「国語便覧」（数研出版）・解釈のための必携古典文法三訂版(啓隆社)・「動詞・形容詞・形容動詞・助動詞 集中学習ワーク」（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１、２年生で積み上げてきた基礎知識を活かして長編の物語を読み解き、千年前の日本の王朝貴族の生活実像に迫ります。伝統的な美意識・美学を理解し、広い基礎教養を身につけましょう。また、漢文、小説を通じて大陸の文化と美意識にもこれまでより深く触れていきます。提出物は期限を守って必ず提出し、情報を広く頻繁に収集、検索し、辞書にも慣れ親しむ暮らしを日常にしてください。

２　学習の到達目標

伝統的な日本語文化に、より生に近い形で触れて、近畿地方に生活する我々にとって身近な歴史を尊重しつつより深く実測的に理解していく。大陸と日本の文化の伝播の様子と差異を、楽しむ教養人になる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	自律学習の成果をノートに盛り込むことを習慣づける。			声に出して朗読することで文語の口調、リズムに馴染む。	文法、習俗、時代背景、人物像などを「ふりかえり小テスト」で定着度を見る。
評価方法	ノート点検・プリント点検、考査			朗読テスト、プリント点検	小テスト・考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

４　学習の活動

学 期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	e	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	説話式部日記・大和物語・古今著聞集・紫式部と寓話「貧と仁斎赤説」	王朝の人間関係	○				◎	a:古文に関心を示し自分で予習をし授業中に確認しようとしている。	行動観察・ノート点検・考査
		和歌の修辞法の理解	○				◎	b:－	行動観察・指名音読
		漢文の訓読、句法の理解	○			◎		c:－	ノート点検
		文法(用言と助動詞の復習)	◎				○	d:文章中の時代背景がさまざまな人物の心情を推し量ることができる。	グループ討議など
		平安の説話、中世の随筆	◎			○		e:古文を読むことに必要な文語のきまりをみにつけている。	ノート点検・発言内容、考査
2	物語「葵」・源氏物語「玉鬘」・評論「勝間伯売鬼」・漢文小説「定」	歌物語の構成				◎	○	a:本文のノート作りだけでなく、周辺事情も調べようとする意欲がある。	行動観察・ノート点検
		王朝女流随筆の背景と美学	○				◎	b:－	行動観察・ノート点検
		漢文の訓読	○			◎		c:－	ノート点検
		文法(助詞と敬語)	◎				○	d：漢文の読みが訓点無しでもできる	指名音読
		平安貴族と漢文の小説	◎			○		e:古文を読むことに必要な文語のきまりをより深くみにつけている。	ノート点検・小テスト、考査
3	新古今和歌集・俳諧	文法(総まとめ)	○				◎	a:速読テキストの練習を取り入れる。	行動観察・ノート点検
		単語を調べ、語彙を増やす	○				◎	b:－	行動観察・指名発表
		作品の歴史的背景	○				◎	c:－	ノート点検
		和歌･俳諧を味わう	○			◎		d:古文、漢文とも意味の切れ目を理解して読むことが出来る。	指名音読
		伝統的な美学と文化の理解	◎			○		e:古文、漢文を読むことに必要な知識がある。	小テスト、考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力　d:読む能力　e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。